

# 令和4年度 第1回「徳島県読書バリアフリー推進協議会」会議録

令和4年9月16日（金）午後2時から午後3時30分まで Web会議

## 議事① 読書バリアフリー推進事業について

- ・令和3年度成果指標報告

委員	令和3年度の成果指標報告について補足説明いたします。点字図書館の年間の貸出数のところ です。これは、点字図書館が直接貸出した数で、令和3年度は減っておりますが、コロナの影響 もあって、サピエ図書館からご自分で直接ダウンロードをして利用された方が非常に増えており ます。また、サピエ会員登録者数が令和3年度は114名で、新規会員が3名増えましたが、死 亡等により退会された方が3名いらっしゃいましたので、会員数は111名となります。修正さ せていただきます。
委員長	コロナの影響もあって、サピエ図書館から自分で直接ダウンロードして情報を得るとい う方が増えたという説明がございましたが、これは、この事業を通して、サピエに関する啓発が進んだ からなのではないでしょうか。
委員	それもあるかもしれません。サピエを直接利用する方が利用しやすい、自分でいつでもどこ でも、どんな時間帯でも、人を介さずに利用できるというメリットがあったのではないかと思いま す。今後はこういった利用が増えていくのではないかと思います。
委員長	おっしゃるとおりだと思います。今後はこういったインターネットを通じた利用を広げてい くような施策が必要だと思います。

## 議事① 読書バリアフリー推進事業について

- ・令和4年度の事業計画及び進捗状況

委員長	委員の皆様方と一緒に協議を重ねて作った「徳島県読書バリアフリー推進計画」は、3つの柱 からなり、この柱に基づいて、「読書バリアフリー推進事業」の取組が進められています。 これまでの協議会で、読書バリアフリーを進めるにあたり、まずは書籍が不足しているので、 つくるという取組が必要ということ。2番目に、サピエ図書館やデジター図書館等を知らない人が たくさんいるので、つかえるようにするという。3番目は、図書館を中心として、ひろげて いく取組、啓発をしていくということ。つまり、「つくる」「つかう」「ひろげる」という三つの柱 で進めようという話でございました。 「つくる」ということについては、今年度鳴門高校が取り組んでくださる。「つかう」につ いては、バリアフリー図書セットを新しく整備し、貸出をして使っていただく。「ひろげる」につ いては、昨年に引き続き、公立図書館等職員への研修をこれから行うということです。 では、ただいまの説明について、御意見・御質問等ございませんか。
委員	啓発の部分に係る質問をさせていただきます。「バリアフリー図書セットの貸出」について、公 立図書館等職員研修会等への貸出とあります。この研修会の参加者には、昨年度は公立図書館職

員、市町村教委、大学・高校図書館職員の方々が入っておられますが、もう少し早い段階のお子さん、小学校や中学校の特別支援学級にいるお子さん方が、いろいろな図書にふれるということを考えますと、義務教育段階の学校の先生、司書等の学校の図書に携わっておられる方々にも参加していただいて、障がいのあるなしに関わらず、読書自体に興味を持つ子供たちに広げるような職種の方にも、対象となっていたらと思いますが、このことについて、啓発の方法など案はございますか。

事務局 「バリアフリー図書セット」については、7月に公立図書館・特別支援学校へ、9月からは小・中・高等学校へも御案内を開始したところですが、保護者や、特別支援学級の子供たちと直に接している方々に、きちんと伝わるような啓発をしなければと考えています。保護者の方々が御覧になる広報誌等に掲載するなどして、啓発に努めたいと思います。

事務局 今後広げていくということについて重要なご指摘をいただきました。小中学校にもシステムが入り、掲示版等で情報を共有できる仕組みも整って参りましたので、これらも活用して、できるだけ多くの方に取組を知っていただけるよう進めて参ります。

委員 私は小学校の子供たちに点字の話をしてほしいと言われることがあり、主に小学校の4年生の子供たちを対象に、点字についていろいろなこととお話をしに行っています。このところあまりなかったのですが、今年は依頼されたところがあり、行く予定です。そのような機会に、このバリアフリー図書セットを見せたら、きっと喜んでもらえて、広報にもなるのではないかと思います。

委員長 委員が点字の話をしに行かれるときに、バリアフリー図書セットがあれば、点字の本だけでなくデイジー図書など、ほかにも様々なバリアフリー図書があることを知ってもらえるのではないかと思います。事務局、こういった場合にも貸出はできるでしょうか。

事務局 はい。ぜひお願いします。

委員長 それではぜひ、小学生の皆さんに啓発をよろしくお願ひしたいと思います。

委員 はい。地域ができることは少ししかないのですが、頑張りたいと思います。

委員 「高校生のための音訳・点訳講習会」や、鳴門高校で行われる「音訳図書製作体験」全6回12時間という取組はすばらしいと思いました。昔はこのような講習会はなかったと思います。徳島でも、延べ50人を越える高校生の方が、点訳・音訳に関心を持って参加されたということに、とても驚くとともに、非常に嬉しく思っております。今、「ダイバーシティ徳島」という言葉もありますが、障がいのある方もない方も共に生きていく社会をつくっていく、そういったことを考える土台にもつながっていくのではないかと思います。

それで一つ質問です。「高校生のための音訳・点訳講習会」の参加対象者として、特別支援学校の高等部の生徒も入っていますが、支援学校から参加した生徒はおりましたでしょうか。

事務局 これとは別に「高校生のための読み聞かせ講習会」というものもしております、こちらの方には参加されていますが、「音訳・点訳講習会」の方への参加はありませんでした。

委員 それでは、私の方でも機会がありましたら、いろいろなところで広報をしていきたいと思いま  
す。

委員長 委員は、特別支援学校の校長会の会長をされていますので、事務局から情報を伝えれば、そ  
ちらの方でも広報していただけるのではないかと思います。

委員 もちろん、そのようにいたします。

事務局 ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

委員 事務局から説明がありましたとおり、7月からバリアフリー図書セットの御案内をさせていた  
だいております。現在、公立図書館からの申込はありませんが、小学校1校、中学校1校から申  
込がありました。5セット作っておりますので、まだ3セットあります。皆様方のところで貸出  
希望がありましたらお願いします。申込があったところには、職員が行って機器の使い方の説明  
をさせていただきます。以上、現在の申込状況について御報告させていただきます。

委員 事務局から紹介していただいたとおり、「高校生のための音訳・点訳講習会」で、当館のデイジ  
ー図書等のバリアフリー図書を提供し、高校生の皆さんに実際にさわっていただき、非常に興味  
を持っていただいたと伺いました。当館は、高校生・大学生のインターンシップや職業体験の際  
に、デイジー図書やL.L.ブックを実際に見てもらいながら障がい者サービスについて紹介をして  
おりますが、このような図書があるのを知らなかったということで、新しく知ってもらう機会に  
なっています。また、目が見えない人だけではなく、読むことが困難な方に利用していただける  
ことを説明すると、手が不自由な人でも使えるのですね、家族や友達に紹介しますと言ってもら  
うこともあります。ですので、アピールする先を、障がいのある方だけではなくて、広くしてい  
くということが大切なのだということ、を、「高校生のための音訳・点訳講習会」に参加した高校生  
の感想を聞いて、改めて感じました。

委員 始めに任期の話が出ましたが、私は全く専門ではなく、いわば門外漢で、私がこの協議会に入  
っている意味は何だろうと考えながら、事務局の報告を聞いていました。私もこの協議会に入っ  
て初めて、サピエ図書館やデイジー図書という言葉を知りましたが、講習会に参加した高校生も、  
これまでデイジー図書等を知らなかったが知る機会になったというのは、まさに私の体験と同じ  
であると思います。三本柱の一つ、「ひろげる」という部分、特に読書を支援する人材の養成とい  
うところがあります。私のような全く専門ではない者が、協議会に入ることによって新しく知り、それ  
を、私の場合はテレワークなど多様な働き方を推進しておりますので、そこで人に伝えて広げて  
いくお手伝いができるのではないかと、思っています。もしかしたらここに、私が参加している  
意味があったのではないかと思っております。先ほど委員のお話の中に、障がいのあるなしに関  
わらず広く知っていただく機会を作ることが大切とありましたが、私も共感しました。

議事② その他 読書バリアフリー推進についての意見交換等

- 委員 令和4年度第1回協議会の資料を見させていただきました。私もこの協議会の第1回から参加しておりますが、第1回・第2回で発言させていただいたことが、よく反映されております。これは、委員長はじめ事務局、点字図書館、県立図書館、委員の皆さん方が努力してくださったのだと感じております。感謝いたしております。
- 高校生の講習会や体験の報告があり、高校生が頑張ってくれておるとのことでしたが、進学のこともある、中心となるのは1年生になるのだろうと思います。また、西部や南部の地域からは、遠くて参加しにくいと考えられますので、参加しやすくなるようにお考えいただければと思います。
- また、最近日本語というものが見直されております。江戸時代の平田篤胤が五十音を作ったわけですが、あいうえおの五十音は非常にきれいらしいですね。量子コンピューターも、日本語の発音は分かりやすくとらえやすいようです。日本語の点字は石川倉治という人が作りました。私は独学で点字をマスターしたのですが、この点字が非常にきれいな形をしていることに気がついたんですね。ですから、高校生、あるいは学校の教員、図書館の方に、点訳や音訳に挑戦してもらって、このことによって、再度日本語を見直すということができないのではないかと思います。
- 委員長 委員は、身体障害者連合会の理事長というお立場で、この協議会に第1回から御参画いただいておりますが、このたび、事業の進捗状況を聞いていただき、お褒めの言葉をいただきました。事務局も喜んでいるのではないかと思います。さらなる御意見として、西部・南部の遠いところからも参加できるように考えてほしいということでした。また、日本語の五十音の美しさということについてもお教えいただきましたが、「高校生のための音訳・点訳講習会」の時に、日本語の五十音の美しさや、点字にしたときの美しさというのも、御参加の方々に合わせてお伝えをするという、非常に崇高な御意見をいただきました。私も勉強させていただきました。ありがとうございました。
- 委員 センターの方でも、小学校の点字体験や、点訳のボランティアの養成等を行っておりますので、今委員がおっしゃっていただいたことに気をつけながら、実施して参りたいと思います。ありがとうございました。
- 私の方からは、これから実施する「公立図書館等職員研修会」についてお願いします。
- 第1回目は、サピエ図書館の使い方の実習を行います。委員長から、第1回の協議会の中で、サピエ図書館の使い方が分からない人がたくさんいるという御意見があったという話もありました。今回は、パソコンを使ってインターネットにつないで、実際にサピエ図書館から図書の検索をしてダウンロードをするという、一から使い方を学んでいく実習を行う予定です。講師は国立国会図書館の障がい者サービス担当の、全盲の方で、御自身が使いこなしておられて、国立国会図書館の学術文献サービスの御担当でもいらっしゃいます。ぜひ公立図書館、学校図書館等の関係の方々に参加していただきたいと思います。コロナの感染状況をみながらですが、講師の方に来ていただく予定ですので、より身近に講習が実施できると思っております。
- 3月の第2回目の研修についてですが、午前中の講師である愛知教育大学の相羽先生は、弱視の方で、以前「障がいのある子供たちへのデジタル教科書活用術」「ICTを活用した様々な読書方法や支援」といったテーマでお話をいただいたことがあります。まだ、お話いただく内容は確定しておりませんので、委員の皆様方から、話の内容や知りたいことなどの御要望がございましたら

たら、お伺いして、先生にお伝えしたいと思います。

委員長

今回の研修会には、いずれも素晴らしい講師の先生方をお呼びいただいているということがございます。ありがとうございます。

それでは、お時間となりましたので、これで協議を終了いたします。